

## 体験しよう！「英語落語」

桂かい枝（よしもと・クリエイティブ・エージェンシー）

昨今、「落語」を取り入れた言語教育実践が盛んに行われるようになってきた（例えば、英語教育では、竹田, 2010; 野呂, 2011 など。日本語教育では、入戸野, 2009; 畑佐・久保田, 2009; 畑佐, 2010 など）。これらは単に読解・聴解練習などを通して落語の小噺を紹介するのではなく、学習者自身に目標言語で落語を演じてもらうことを大きな特徴としている。野呂（2011）は、落語を取り入れることにより、言語学習への動機づけが高まると述べ、英語を学ぶ日本人の子どもたちを対象とした実践を報告している。また、日本語教育への導入を試みた畑佐（2010）は、以下の4点を落語を用いる利点として挙げている。

1. 基本的に話芸であるため日本語教育／学習にとても近い
2. 笑いというユニバーサルな要素が含まれている
3. 一人芸であるため、費用を少なく押さえることができる
4. 歌舞伎や文楽ほど日本の伝統文化として取り上げられていない

（畑佐, 2010, pp. 65-66）

しかしながら、費用を押さえ手軽にできるとはいえ、実際に授業で落語を扱うには、どのようにすればよいのかわからず躊躇する教師も多いだろう。また、母語以外で落語を演じることは尚更難しいことのように感じてしまうのではないだろうか。

そこで、本セッションでは、これまでに世界 17 カ国 97 都市で英語落語の公演を行ってきた桂かい枝氏による英語落語の実演と英語落語のワークショップを通して、参加者とともに言語教育における落語使用の可能性について議論したい。

- 発表の流れ
- 1) 落語の概要と英語落語の紹介
  - 2) 英語落語の実演
  - 3) 参加者による英語落語の体験
  - 4) ディスカッション（言語教育における落語使用の可能性について）
  - 5) ふりかえり・まとめ

[企画者 瀬尾匡輝（香港理工大学）]